

ジンポー語正書法（景頗文）

澤田 英夫

民族名・言語名 Jinghpaw

分布 ミャンマー連邦カチン州、中華人民共和国雲南省徳宏傣族景頗族自治州・怒江傈僳族自治州・臨滄地区など。「カチン」と呼ばれる民族集合体の多数派を占め、その言語も「カチン」の標準語としての地位を確立している。

人口 ミャンマー 625,000、中国 20,000 (*Ethnologue*, 14th edition)

言語系統 シナ=チベット語族、チベット=ビルマ語派、下位分類には未だ定説なし。

正書法 1890年代、ビルマを訪れたアメリカのバプティスト派の宣教師 Ola Hanson によってつくられた。(藪 2001:225) のち中国にも広まったが、中国では1957年に一部改変を行った。(劉 1984:99) ここに掲げたのは、中国の「景頗文」である。

頭子音

	LABIAL	DENTAL	ALVEOLAR	PALATAL	VELAR
NASAL	m /m/		n /n/	ny /ñ/	ng /ŋ/
STOP/ <i>unaspirated</i>	b-p /p/*1	z-ts /ts/*1	d-t /t/*1	j-chy /c/*1	g-k /k/*1
AFFRICATE <i>aspirated</i>	hp /ph/*2	zh /tsh/*3	ht /th/*2	ch /ch/*3	hk /kh/*2
FRICATIVE	f /f/*3	s /s/*2		sh /ʃ/*2	h /x/*2
LATERAL			l /l/		
FLAP			r /r/		
APPROXIMANT	w /w/			y /y/	

**音素表記は筆者による。以下の項同じ。

*1 ダッシュの前の字は後続する母音が非緊喉の場合、後の字は緊喉の場合に用いられる。

*2 非緊喉母音としか結びつかない。

*3 いずれも中国で漢語からの借用語を表記する際に用いられ、Hanson 正書法には含まれない。

介子音

-y- /-y-/ *頭子音/p,ph,m,k,kh/と結合。

-r- /-r-/ *頭子音/p,ph,k,kh/と結合。

母音

i /i/	u /u/	ui /ui/*3	
e /e/*1	o /o/*2	oi /oi/	
a /a/		ai /ai/	au /au/

*1 Hanson 正書法では e, ē, è の 3 通りの書き分けが見られる。´も`も、声調あるいは何らかの韻律特徴を表すことを意図した記号と思われるが、末子音を伴わない e との共起のみにほぼ限られ、明らかに体系的でなく、しかも現在では書き分けをしないことが多い。

*2 Hanson 正書法では o は頭子音も末子音も伴わない音節を表記する場合にのみ用いられる。それ以外では aw を用いる。

*3 Hanson 正書法では wi を用いる。

母音の緊喉性素性

/[±creaky]/ 頭子音表記によって区別。ただし鼻音・流音の場合には区別できない。頭子音の項参照。

末子音

-ng /-ŋ/ -k /-k/ -n /-n/ -t /-t/ -m /-m/ -p /-p/

/-ʔ/は表記されない。

声調

/H/ [V55] /M/ [V33] /L/ [V31] /F/ [V51] いずれも表記されない。

弱化音節

/ä/ 後続する音節に接して綴られる。弱化音節でない場合には、後続する音節との間にハイフンを入れる。

ma-na [ma33 naʔ55] 「おとといの晩」 (『景漢辞典』 p.476)

mana [mä31 naʔ55] 「昨晚」 (同上 p.477)

*Hanson 正書法はä という表記を持つが、読本など厳密に表示したい場合以外は用いない。

評価

音節構造 (C (C)) V[±creaky] (C) / T
 音節表記構造 (C ((C)) V (C))

実線は完全に表記し分けられる関係を、点線は完全には表記し分けられない関係を表す。線で結ばれない音節構造中の要素は全く表記されない。

- 同綴異音の多さ、特に声調を表記しないのは声調言語の書写法として致命的な欠陥。

la [la31] 「待つ」; 「ぴかっと」

[la33] 「(肉を) さばく」

[la55] 「取る、もらう」

[laʔ31] 「内」; 「閉じる」

[laʔ55] 「とても」

[laʔ55] 「いつも」(//は母音が [+creaky] であることを表す。) (『景漢辞典』 pp.385–386)

- にもかかわらず広く通用しているのは、母語話者にとって書写法は二ーモニク程度で十分だということなのか。

参考文献

- Hanson, Ola: *A Dictionary of the Kachin Language*, Rangoon, 1906 (repr. 1954, 1966).
- 徐悉艱・肖家成・岳相昆・載慶厦 (編著): 『景漢辞典』. 雲南民族出版社、1983.
- 載慶厦・徐悉艱: 『景頗語語法』. 中央民族学院出版社、1992.
- ビルマ社会主義計画党連合中央委員会総局: 『ビルマ連邦民族文化伝統習慣・カチン州』(ビルマ語). 1967.
- 藪司郎: 「カチン文字」. 河野・千野・西田 (編) 『言語学大辞典別巻・世界文字辞典』. 三省堂、2001、pp.224–228.
- 劉璐 (編著): 『景頗族語言簡志 (景頗語)』. 民族出版社、1984.